



© Chisato Hashimoto / Greenpeace

2019 Annual Report

2019年 年次報告書

国際環境NGOグリーンピース・ジャパンの取り組み



© Masaya Noda / Greenpeace

Message

2019年を振り返って



© Masaya Noda / Greenpeace

国連のグテーレス事務総長が、「『気候変動』はもはや『気候危機』であり『気候非常事態』だ」と発言しているように、2019年もまた猛烈な豪雨や猛暑に見舞われた年となりました。また同時に、世界中で気候危機に対する意識が高まった年でした。日本でも、東京をはじめ大阪、名古屋、全国各地で若者を中心に地球環境のために立ち上がりました。

グリーンピース・ジャパンでも、金融機関に対し、石炭火力への投資をしない方針を求めるなど、気候危機に向けて取り組みを強化しました。私たちがここ数年力を入れている使い捨てプラスチック問題への取り組みも、気候を守るアプローチのひとつです。プラスチック問題では、使い捨てプラスチックの代替案やリサイクルに注目が集まっています。しかし、CO2排出を抑えながら海や川を汚染から守る本場の解決策は、使い捨て文化からリユース（再利用）・リフィル（詰め替え）社会へ転換することです。東京都への給水機の設置を求める活動や、自分の容器や袋をお店に持ちこんで買い物を楽しむアイデアなど、解決策を提案しながら活動を展開しました。

グローバルな活動では、過去最悪の事態と言われたアマゾンの森林火災では、主な原因である工業型畜産にスポットライトを当て、世界中のグリーンピースと連携し、国際キャンペーンを実施しました。

また、炭素を蓄えて気候を安定させる役割を持ち、多くの生きものの住処でもある海を、プラスチック汚染、石油採掘などから守るため、世界の海の3分の1を保護区とする国際海洋条約の実現を目指しました。約1年にわたり、北極から南極をグリーンピースの船2隻で縦断する壮大なキャンペーンも展開しました。

2011年以来継続している原発問題では、30回目となる東京電力福島原発事故の影響調査を行い、飯舘村、浪江町などを21日間をかけて調査しました。東京五輪聖火リレー出発点周辺では、深刻なホットスポットを発見し、事故の影響がいまだに残る現状を広く伝えました。

グリーンピース・ジャパンは2019年、30周年を迎えました。これまでの皆さまのご支援とお力添えに、心より感謝を申し上げます。

気候危機が進み、私たちの暮らす地球のバランスが崩れ、環境は急速に変わっています。だからこそ私たちは、恵み豊かな自然を次の世代に残すために、一人ひとりが積極的に行動し、役割を果たす未来を思い描いています。グリーンピースは、2020年もそのために全力を尽くしてまいります。また、環境破壊から地球を守る原動力を持っているのは、気候マーチで立ち上がったような市民の皆さん一人ひとりです。グリーンピース・ジャパンはこのような方々を今後も応援していきます。

これからもぜひ、グリーンピースと一緒に行動してください。

グリーンピース・ジャパン 事務局長
サム・アネスリー



S. Anesley

© Dermot Killoran / Greenpeace

Key Figures

数字でみる一年

寄付サポーター数

6,910人 (前年度7,228人)

イベント参加者

1,154人

ボランティア数

993人 (前年度704人) *1

ウェブサイト総閲覧回数

1,843,613回 (前年度1,714,593回)

Facebookフォロワー

151,465人 (前年度148,789人)

Twitterフォロワー

26,321人 (前年度24,510人)

Instagramフォロワー

14,738人 (前年度4,107人)

オンラインサポーター数

125,455人 (前年度105,764人)

新聞、テレビ、雑誌等で
グリーンピースの活動が紹介された件数

2,225件 (前年度1,033件)

*1 ボランティアメール登録者数



© Denis Sinyakov / Greenpeace



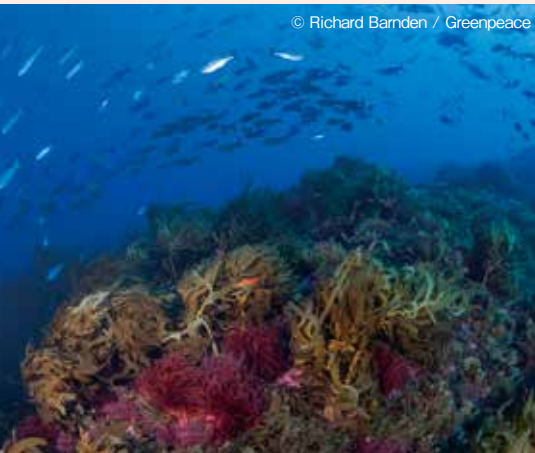
© Chihiro Hashimoto / Greenpeace



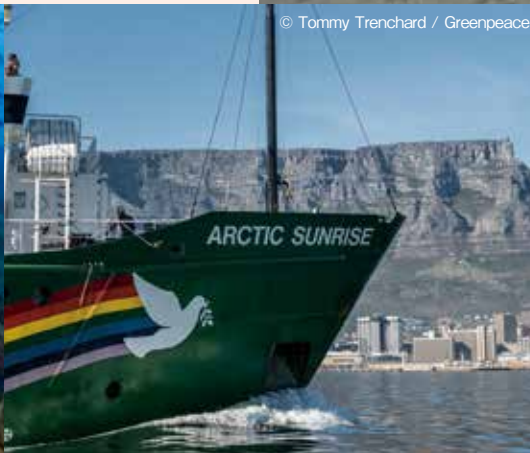
© Victor Moriyama / Greenpeace



© Chihiro Hashimoto / Greenpeace



© Richard Barnden / Greenpeace



© Tommy Trenchard / Greenpeace



© Noel Guevara / Greenpeace

Climate & Energy

自然エネルギー100%の社会を目指して



© Greenpeace

放射能汚染水を海に放出しないで

海洋放出が問題となっている、東京電力福島第一原発の「汚染水」。グリーンピースは海洋生態系保護などの観点から放出に強く反対しており、12月には政府の汚染水処理対策委員会に4万1521筆の反対署名を提出しました。同委員会の多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会（ALPS小委員会）事務局は、汚染水の海洋放出、水蒸気放出を提示。グリーンピースはより安全な代替案が十分検討されていないとして、撤回を訴えています。



© Christian Aslund/Greenpeace

石炭火力発電所を2050年までに全廃するシナリオ

温室効果ガスの主要排出原因の石炭火力発電に対し、グリーンピースは金融機関に投融資中止を求めています。2019年に三菱UFJフィナンシャル・グループが、石炭火力発電への新規融資中止を発表したことは大きな成果です。4月に発表した『地球温暖化を1.5℃未満に抑えるために石炭を段階的に廃止する道すじ』では、世界の石炭火力発電を2050年までにほぼ完全に全廃するシナリオを示しています。8月に発表した報告書『日本の二重基準—海外石炭火力発電事業が引き起こす深刻な健康被害』では、日本の政府系公的金融機関が、国内より大気汚染物質の排出制限が低い海外の石炭火力発電に融資することで、現地で気候変動や早期死亡を引き起こすと予測しています。

聖火リレー出発地周辺でホットスポット確認

10月16日～11月5日、福島県で30回目の放射線調査を行いました。その際、東京五輪の聖火リレースタート地点のJヴィレッジ周辺で、複数のホットスポットを発見し、その放射線レベルは最大で地表面で毎時71マイクロシーベルトにも上りました。グリーンピースはただちに、小泉進次郎環境大臣に状況を通知し、東電が該当箇所の汚染土を除去しました。この問題は国内外のメディアに大きく取り上げられました。調査は浪江町、飯舘村、大熊町、福島市などで行いました。

■ 主な発行物 / 報告書

- 3月 『原発事故の最前線：労働者と子どもへのリスクと人権侵害、福島県浪江町と飯舘村における放射線調査』
- 4月 『地球温暖化を1.5℃未満に抑えるために石炭を段階的に廃止する道すじ』（日本語版）
- 8月 『日本の二重基準—海外石炭火力発電事業が引き起こす深刻な健康被害』
- 9月 気候変動に関する意識調査
- 10月 福島第一原発汚染水の意識調査
- 11月 IPCC『海洋・雪氷圏に関するIPCC特別報告書』（SROCC）の重要ポイント（日本語版）
東京都ゼロエミッション東京 都民アンケート（概要）



© Chihiro Hashimoto / Greenpeace

みんなの力で
自然エネルギー100%の社会を
鈴木かずえ（エネルギー担当）

異常気象の激しさが増し、「気候変動」ではなく「気候危機」という表現が使われるようになりました。一刻も早いCO2実質ゼロが求められる中、2019年末に東京都が2050年までのCO2実質ゼロ戦略を発表。グリーンピースは、一人ひとりとつながってこの動きを後押し、みんなの力で自然エネルギー100%の社会をつくりまします。

Climate Emergency

異常気象から命と暮らしを守る



© Masaya Noda / Greenpeace

九州北部豪雨の被災地から

8月27日から29日
にかけ、秋雨前線
の影響で九州北部
の広い範囲が記録
的な豪雨に見舞わ
れました。気象庁
は「数十年に1度
の災害の可能性が
ある」として、28



© Masaya Noda / Greenpeace

日未明に佐賀、福岡、長崎の3県に大雨特別警報を発令。各地で冠水などの被害が続出しました。グリーンピースは29日に、大きな被害を受けた佐賀県武雄市に入り、豪雨がもたらした甚大な被害を確認しました。環境破壊の現実を直接確かめ発信する活動は、グリーンピースの大切な活動のひとつ。温暖化がこうした気象災害を増幅する可能性があることから、グリーンピースは現地の写真や動画、被災者の声とともに、化石燃料からの脱却などを強く訴えました。

グローバル気候マーチ

気候正義を訴えるグレタ・トゥンベリさんの行動に共感した若者たちが立ち上がり、世界中で展開されている“Fridays For Future”。日本でも、2月に初めて国会議事堂前でマーチが行われました。その後も日本各地で開催され、2月には数十人だった参加者の数が、9月には日本全体で約5,000人にまで達しました。東京での参加者数が増えただけでなく、北は北海道から南は沖縄まで、学

生など若者が中心となって、日本全体でこの動きを盛り上げました。記録的豪雨や大型台風による凄まじい被害を各地で目の当たりにした2019年。日本でも着実に、気候危機に対する関心が高まっています。



© Toma Iczkovits / Greenpeace



© Global Climate Strike Japan



© Masaya Noda / Greenpeace

**水没した街並、目の当たりにした
気象災害の脅威**

川瀬充久 (広報担当)

佐賀県の豪雨の被災地で目にしたのは、湖のようになった街の姿でした。流出した黒い油混じりの水面のあちこちから、島のように家屋が浮かぶ光景。瞬間に日常を一変させる気象災害から命と暮らしを守るため、一人ひとりが可能な限りの努力を積み重ねながら、政府や企業にも変革を求めていくことが必要だと痛感しました。

Volunteers

ボランティア & インターン活動



ボランティア活動

毎月開催しているボランティアミーティングを進化させて、SNSの使い方勉強会や、ミツロウと布で作る繰り返し使えるエコラップを実際に作ってみるなど、環境へのアクションの実践の場となりました。また、大学生ボランティアチームが主体となって、イベント「プラフリー喫茶」を大学キャンパス内で開催し、学生から学生へ直接アプローチしました。



インターン主催のイベント

環境問題について英会話を通して学ぶイベントや、気候変動に関する映画を上映し意見交換するイベントなどを、学生インターンが主体となって開催しました。学生が主催し、参加者も学生に限定することで、お互いが刺激を受けながら話し合いを深めることができました。イベントをきっかけにインターンに応募するなど、学生同士が繋がることで、グリーンピース・ジャパンの輪が広がっています。

多様なボランティアの活動

ボランティアの皆さんが、使い捨てプラスチックを使わずにマイ容器でお買い物ができる量り売りのお店に実際に行ったり、エシカルな古着を着て気候マーチに参加したり、キャンペーンのアイデア出しに参加するなど、ボランティアの協力で多様な活動が実現しました。また、グリーンピース・ジャパンのSNSから発信されるボランティアさんのメッセージは、「自分もボランティアしてみたい!」という声をいただくなど共感を呼んでいます。



バルクフーズ量り売り

古着で気候マーチイベントに(11月)



つながることの大切さを感じた1年

儀同千弥(ユースエンゲージメント・コーディネーター)

学生世代の方の中には、自分と同じ世代が積極的に環境問題に対して活動している様子を知ること、1人では踏み出せなかった一歩を踏み出せた方が多かったのではないかと思います。ここから更なる広がりを生み出せるよう、皆さんと一緒に環境や社会のためにアクションを起こすコミュニティを作っていきたいと思っています。

Food for Life

食と環境問題



© Caner Ozkan / Greenpeace

より安全なお米まであと一歩

ミツバチの大量死の原因であり、土に長期にわたって残留するネオニコチノイド系農薬。

カメムシが穂の汁を吸うことでできる黒い点のあるお米（斑点米）は、2粒混ざるだけで等級が落ち買取価格が下がるため、農家はカメムシ対策としてネオニコチノイド農薬を使わざるをえません。しかし実際は、斑点米は色彩選別機で除去できるので、農薬は不要。8月、米の等級に関わる斑点米の規程など、農薬の過剰使用につながる現行の制度を見直すよう政府に求める署名1万9326筆を協力団体とともに提出。斑点米についての消費者アンケートや記者会見なども行いました。



© Greenpeace

カメムシが穂の汁を吸うことでできる黒い点のあるお米（斑点米）は、2粒混ざるだけで等級が落ち買取価格が下がるため、農家はカメムシ対策としてネオニコチノイド農薬を使わざるをえません。しかし実際は、斑点米は色彩選別機で除去できるので、農薬は不要。8月、米の等級に関わる斑点米の規程など、農薬の過剰使用につながる現行の制度を見直すよう政府に求める署名1万9326筆を協力団体とともに提出。斑点米についての消費者アンケートや記者会見なども行いました。

お肉を減らして心も体も健康に

森林破壊や水質汚染を招き、気候変動を加速させる工業的畜産を変えるため、肉の消費量を減らす「お肉を減らして心も体も健康に」キャンペーンを実施。代わりに、果物、野菜、豆、全粒穀物、ナッツなどの植物性食品を積極的に摂ることは、体にもいいことが科学的にわかっています。ブログやSNSなどで、実践者やお肉を使わない料理レシピを紹介したり、食と環境問題についての勉強会やクッキングイベントを行いました。

なぜ時代はレスミートに？

グリーンピース・ジャパンは、ボランティアを中心に、お肉や乳製品を大量生産する「工業型畜産」の問題を解決するために「チームプランツ」



© Greenpeace

を結成しました。世界的に広がるライフスタイルである、レスミートを日本で盛り上げていくことを目指し活動しています。エシカルスイーツ研究家の山田浩子さんをお招きしてエシカルスイーツ教室を開催したり、ヴィーガンシェフ、オオヤマタカコさんによる、シンプルでお肉を使わずに心も体も癒してくれるお料理などを紹介しています。



© Greenpeace

オーガニックを広めるために

田中進（チームプランツメンバー）

日本ではまだまだあまり知られていなかった工業型畜産と環境破壊の関連性に昔から関心を持っていました。多くの方にこの事実を知ってもらおうと、グリーンピース内で「チームプランツ」を結成しました。これからも、レスミートやオーガニック食を広めるなど、地球環境と人を守る活動に尽力していきます。

Plastics

リユース・リフィルが当たり前の社会へ



© Sawako Obara / Greenpeace

海洋汚染に関わっている企業はどこ？

使い捨て商品包装に頼る日用消費財や食料飲料メーカー。どんな企業がどれだけプラスチックの海洋汚染に関わっているか、毎年世界規模で調査を行っています。日本では、9月に神奈川県の大磯で、グリーンピースのボランティアメンバーが調査を実施、40名が参加しました。



© Chihiro Hashimoto / Greenpeace



© Chihiro Hashimoto / Greenpeace



© Chihiro Hashimoto / Greenpeace

■ 主な発行物 / 報告書

- 3月 報告書「マイボトルと給水機利用状況から見るペットボトルフリーのカギ」
- 5月 「2016～2018年の世界の廃プラ取引データおよび中国の国外廃棄物輸入禁止措置による他国への影響」
- 6月 報告書「プラスチックに関する日本の現状と取り組み」
- 7月 「使い捨てプラスチック製品および生物由来原料に対するグリーンピースの見解」
- 11月 報告書「未来を捨てるまやかしの解決策～企業のプラスチック汚染問題への対応」(日本語版)
- 12月 報告書「スマート・スーパーマーケット」(日本語版)



東京都に「マイボトル給水機を増やして」

日本では毎年200億本ものペットボトルが出荷されています。マイボトルに水を補給できる給水機が街中にあると、プラスチックを使い捨てる習慣から脱却していくきっかけに。東京都に対し「2020年までに、マイボトル給水機を増やして、ペットボトルフリー都市をめざしてください！」と訴える署名キャンペーンを行い、6月、11,752筆を提出しました。



© Greenpeace



© Greenpeace

© Greenpeace

今こそ、社会のあり方を見直す時

大舘弘昌・渡邊睦美

(プラスチック問題担当)

昨年は企業や大学のイベントでの講演や、多くの国内外メディアによる取材、そして「減プラスチック社会を実現するNGOネットワーク」として政府のプラスチック戦略について提言するなど、さまざまなステークホルダーとともに使い捨てプラスチック問題に取り組んだ一年でした。

いま、社会のあり方自体を見直す時期にきています。プラスチック問題は、これからの生産と消費、ビジネスのあり方、そして私たちの暮らしの豊かさについて、大きな疑問を投げかけていると感じます。気候危機や海洋汚染に対して、解決策を生み出して実行していくために、2020年も皆さんと一緒に取り組んでまいります。

Global

アマゾンの森林火災 / #MAKESMTHNG



© Fábio Nascimento / Greenpeace

アマゾンの森を守って

過去最悪の事態と言われるアマゾンの森林火災。世界中で3秒ごとにサッカー場1つ分の森林が消失するなか、アマゾンの焼失はさらなる危機です。森林は気候変動を大きく緩和する作用を持ちます。火災の最大の原因



のひとつは「工業型畜産」。牛の放牧と、えさである大豆のプランテーションのために行われる森林開拓。グリーンピースは、ブラジル事務所を中心に、ブラジル大統領に反環境的な政策の転換を求める国際キャンペーンを行いました。日本では、9月、グリーンピース・ジャパンの事務所で開催しました。また、東京のブラジル大使館前で、来日中のボルソナロ大統領にアマゾンの森林破壊を止めるよう求めました。

大手ファストフード企業への働きかけ

グリーンピースは、世界各国で、マクドナルド、ケンタッキーフライドチキン、バーガーキングなどの大手ファストフード企業に、「森林破壊を促進する政策を続けるブラジルのボルソナロ大統領に立ち向かって！」と伝える国際署名を実施。2020年1月現在、25万人を超える声が集まっています。これらの企業は、ブラジルから大量の牛肉などの調達を続けています。アマゾンの火災に対して立ち上がり、対策をとるように呼びかけました。

#MAKESMTHNG ーファッションと気候変動

「ファストファッション」の出現以来、人々は2倍の服を購入するようになり、服を以前の半分の期間しか着なくなると言われます。大量消費はCO2を排出し、気候危機を押し進めます。12月、グリーンピースは世界中で、MAKESMTHNG（メイクサムシング）キャンペーンを実施。服や物を手入れしたり、手作りしたり、古着をアップサイクルしたり、長く大切に使う方法を提案しました。アーティストやボランティアの工夫や楽しい事例をSNSで紹介したり、水を汚さない草木染めで、古着を素敵に蘇らせる草木染めイベントなどを開催しました。



© Taishi Takahashi / Greenpeace



© Taishi Takahashi / Greenpeace

Global

—Protect the Oceans
神秘に満ちた海を未来へ



© Christian Åslund / Greenpeace

国連とともに、世界の海をまもる歴史的なチャンス

新たに国連の海洋条約をつくり、気候変動やプラスチック汚染、石油採掘などの危機に直面している海を守り、回復させることを目指すキャンペーン



© Denis Sinyakov / Greenpeace

は、約1年にわたり、北極から南極を2隻の船で縦断する壮大なグローバルキャンペーンです。英国オックスフォード大学、ヨーク大学との共同報告書『30x30:海洋保護の未来図』も発表し、公海の3分の1以上が破壊的な人間の活動ができない保護区となれば、ウミガメなどの海の生きものたちの故郷を守ることができることになりました。

海を一緒にまもる「オーシャンアンバサダー」

このキャンペーンに賛同する「オーシャンアンバサダー」は、世界で60名を超え、日本からは、美容家、ファッション関係者、執筆家、モデルなど様々な経験を持つ13人が賛同を示してくれています。

俳優のハビエル・バルデム氏がタイムズスクエアで国際的な海洋条約の重要性を訴えたり、プラスチック汚染を伝えるため、俳優のシェイリーン・ウッドリー氏が一緒に船に乗り、SNSで発信するなど、多岐にわたり協力してくれています。



日本のオーシャンアンバサダーのみなさま



© Chihiro Hashimoto / Greenpeace

海を守って、私たちの暮らしを守る

石川せり (コミュニティ・ビルディング担当)

海は、私たちや動植物のいのちを守ってくれている大事な存在であると同時に、人の手によって多方面から破壊が進んでいるのが現実です。「海を守ることは暮らしを守ること」というメッセージをより多くの人に伝え、たくさんの方が海を守るグローバルムーブメントに参加することを目指し、活動を続けています。

Finance

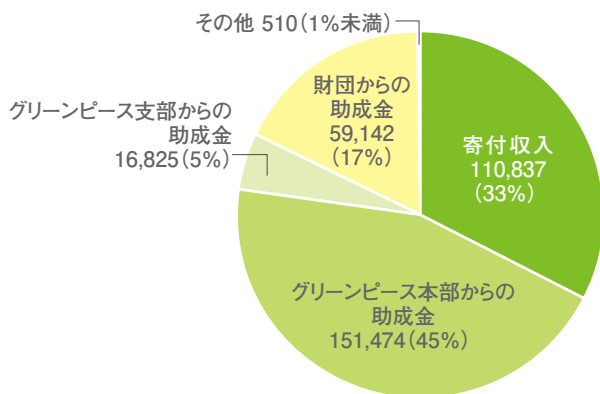
2019年度 会計報告

2019年度財務報告

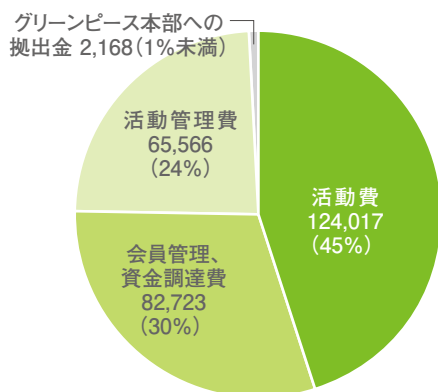
グリーンピース・ジャパンの2019年度（1月～12月）における財務報告書は、国際会計基準（IFRS）に準拠して作成され、RSM清和監査法人により会計監査を受けたものです。2019年度は昨年に引き続き、本部であるグリーンピース・インターナショナルに加え、ドイツ、フランス、オランダの海外支部、および個人基金等からも人的・資金的な支援を得て、気候変動・エネルギー分野、生態系農業への転換を呼びかける食と農業分野、海洋生態系分野、プラスチック問題などに精力的に取り組みました。

今年度、グリーンピース・ジャパンの収入は本部からの支援が増えたため、全体としてわずかに増えましたが、サポーターからの寄付が前年に比べて減少しました。総支出はわずかに減少しましたが、前年度と同程度の規模となり、調査・公表や、企業や政府への働きかけ、メディアやサポーターをはじめとした多くの方への情報提供と協働を行うことができました。私どもの活動を支えてくださった多くの皆様に心より感謝申し上げます。

2019年 収入内訳 単位:千円



2019年 活動費・管理費の内訳 単位:千円



収支計算書 (自2019年1月1日 至2019年12月31日)

単位:千円

収入		
寄付収入	110,837	
グリーンピース本部からの助成金	151,474	
グリーンピース支部からの助成金	16,825	
財団からの助成金	59,142	
その他収入	510	338,788
活動費用及び活動支出		
活動費	124,017	
会員管理、資金調達	82,723	
活動管理費	65,566	
グリーンピース本部への拠出金	2,168	
その他（物販費など）	0	274,474
活動収支		64,315
活動外収入		
受取利息	1	
雑収入	414	415
活動外費用及び支出		
為替差損	29	
有価証券売却損	28	57
税引前収支		64,672
事業税		70
税引後収支		64,602

貸借対照表 (2019年12月31日現在)

単位:千円

資産	
流動資産	211,926
固定資産	
有形固定資産	0
無形固定資産	1,565
投資有価証券	47
その他資産	888
資産合計	214,425
負債	
流動負債	31,908
固定負債	0
負債合計	31,908
正味財産	
正味財産合計	182,517
負債及び正味財産合計	214,425

* グリーンピースは脱原発と自然エネルギーの飛躍的導入を求め、株主総会への参加・議決権行使などのために、東京電力の株式を最小単位で購入しています。

グリーンピース・ジャパン 概要

【名称】 一般社団法人 グリーンピース・ジャパン

【所在地】 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-13-11 NFビル2F

【設立年月】 1989年4月

【代表者】 代表理事／青木陽子、寺中誠

【事業対象分野】 地球環境保護（気候変動/エネルギー/原子力問題、海洋生態系保護、農業問題、有害物質問題、森林問題等）

【活動対象範囲】 全世界

【組織の目的】 地球規模の環境破壊を止めること

【具体的な活動手法】 ●環境破壊の実態を科学的に調査・分析し公表 ●マスメディア、市民メディア、会員への情報提供
●環境破壊を止めるための行動の呼び掛け ●環境破壊の現場に行き、抗議活動
●環境問題を解決に導くための代替案の提示 ●政府・企業などへの提案・要請
●国際条約の交渉過程を監視、提言

【方針】 非暴力行動・政治的独立・財政的独立

【会員】 約6,910人(国内)、約300万人(世界全体) ※2019年12月時点

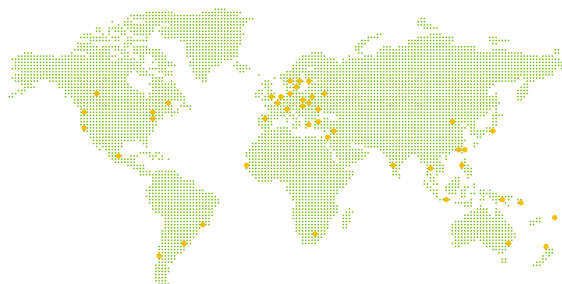
【事務局】 国内有給職員 35名（うち、時間給制職員12名）

【本部所在地】 オランダ・アムステルダム(日本を含む世界55以上の国と地域で活動。有給職員約3,018名)

【ホームページ】 www.greenpeace.org/japan

【SNS】 Twitter: @GreenpeaceJP Facebook: グリーンピース・ジャパン Instagram: greenpeacejp

世界に広がるグリーンピース



●グリーンピース・メキシコ
●グリーンピース・ブラジル
●グリーンピース・アンディーン
アルゼンチン/チリ/コロンビア

●グリーンピースUSA
●グリーンピース・カナダ

●グリーンピース・東南アジア
インドネシア/フィリピン
タイ/マレーシア
●グリーンピース・インド

●グリーンピース・ジャパン
●グリーンピース・東アジア
北京/香港/台北/ソウル

●グリーンピース・インターナショナル(本部 オランダ・アムステルダム)
リーガル(法律)ユニット(ベルギー・ブリュッセル)

●グリーンピース・リサーチ研究所
イギリス エクセター大学内
●グリーンピース・オランダ
●グリーンピース・ベルギー
●グリーンピース・ルクセンブルグ
●グリーンピースUK
●グリーンピース・フランス
●グリーンピース・ドイツ
●グリーンピース・スイス

●グリーンピース・北欧
デンマーク/ノルウェー
フィンランド/スウェーデン
●グリーンピース・ギリシャ
●グリーンピース・イタリア
●グリーンピース・スペイン
●グリーンピース・チェコ
●グリーンピース・ロシア

●グリーンピース・中欧/東欧
オーストリア/ブルガリア/クロアチア
ハンガリー/ポーランド/ルーマニア
スロヴァキア/スロヴェニア
●グリーンピース・地中海
イスラエル/トルコ
●グリーンピース・アフリカ
南アフリカ/セネガル/コンゴ/ケニア
●グリーンピース・中東&北アフリカ
ペイルート

●グリーンピース・オーストラリア・パシフィック
オーストラリア/フィジー
バプア・ニューギニア/ソロモン諸島
●グリーンピース・ニュージーランド

■ あなたの思いを力に活動しています

独立・中立の立場から環境問題の解決を目指すグリーンピースの活動は、この報告書に掲載された成果を含めてすべて、地球の未来をまもりたいと願う個人の皆さまのご支援のみに支えられています。心より感謝申し上げます。誰もが安心して暮らせる緑豊かで平和な社会を、あなたのご寄付で実現してください。

詳しくは

直通電話 03-5338-9810

もしくは supporter.jp@greenpeace.org

グリーンピース 寄付

検索



© Kazuya Hokari / Greenpeace

GREENPEACE

国際環境NGO グリーンピース・ジャパン

〒160-0023 東京都新宿区西新宿8-13-11 NFビル2F

Tel. 03-5338-9800 Fax. 03-5338-9817

www.greenpeace.org/japan